

南バイパスが同時開通

1512
時月
開5
通日

高速交通体系の 整備着々と

東西を横切る 南バイパス

東北縦貫自動車道に加え、あきた北空港も開港し、大館の高速交通体系が順調に整ってきました。しかしながら、そこに至るまでのアクセスの面は、まだ十分とはいえません。そんな中、大館南バイパスと日本海沿岸東北自動車道の一部を構成する大館西道路の一部が12月5日に開通します。これにより、大館が目指す「北東北の中核拠点都市」へと、また一歩近づくことになります。

大館南バイパスは、山館を始点に餌釣、池内、根下戸を通り、立花地内で国道7号につながります。山館から池内までは平成八年に開通しており、今回で全面開通となります。総延長九・八五km、道路の幅二十五mで、途中、山館、山王岱、池内、根下戸の四か所にランプ（出入り口）があります。交差点はすべて立体化されていますので、目的地までノンストップで行えます。

南北に通る 西道路

大館西道路は、総延長が六・二四km、幅が二十二mの高規格幹線道路（自動車専用道路）です。今回は大館南インターチェンジ（根下戸新町）から釈迦内地内の国道7号まで（全長四・六三km）の一部が開通です。最終的には、大館南



供用中の大館南バイパス山王岱ランプ付近

インターチェンジから大館北インターチェンジ（商人留）を結びます。将来は日本海沿岸東北自動車道の一部を構成し、大館北インターチェンジ以東の区間（大館・小坂間）は東北縦貫自動車道につながる予定です。

道路の開通で こんな効果が

両道路の開通で期待されるのが、渋滞の解消です。目的地までのルートが増え、ドライバークがより近い道路を選ぶことで、朝夕の慢性的な交通渋滞を緩和できます。特に、降雪時のノロノロした車の流れもスムーズになることでしょう。また、道路建設などの社会基盤の整備は、地域の発展につながります。例えば、人の行き来が活発になると、地域間の交流を深められます。そのうえ、物の流れを活発にし、企業の進出や誘致など、経済的な効果が期待できます。

長期的には、県北地域、そして県内を短時間で結ぶ高速ネットワークを形成する足掛かりとして大いに活躍しそうです。もし、県内が高速道でつながったとしますと、秋田市までは八十分、湯沢市までだと二時間の所要時間で行けることになります。

